

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.183 2022.10.10

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘 4 丁目 698-1  
大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室  
TEL : 090-1026-1413 FAX : 050-3488-5061  
E-mail : jsei@m11.osaka-kyoiku.ac.jp HP : <http://jsei.jp/home/>

## \*\*\*\*\* 第 38 回定時総会報告 \*\*\*\*\*

2022 年 8 月 20 日（土）十文字学園女子大学にて、日本教育情報学会第 38 回定時総会（オンライン形式併用）が開催されました。

正会員 487 名のうち 197 名の出席があり（委任状による出席者 124 名を含む）、定款 27 条により総会は成立し、安達一寿会長を議長として総会を開会いたしました。

【提案された議案】（Newsletter No.182 をご参照ください。）

- 第 1 号議案 2021 年度事業報告及び収支決算の件
- 第 2 号議案 2022 年度事業計画及び予算案の件
- 第 3 号議案 学会定款変更の件

- 第 1 号議案は、原案通り承認されました。
- 第 2 号議案は、原案通り承認されました。
- 第 3 号議案は、原案通り承認されました。

## \*\*\*\*\* 日本教育情報学会第 38 回年会開催報告 \*\*\*\*\*

第 38 回年会実行委員会委員長  
石川敬史(十文字学園女子大学)

2022 年 8 月 20 日（土）、21 日（日）に十文字学園女子大学（埼玉県新座市）にて第 38 回年会を開催いたしました。参加者 192 名、発表申込者 147 件（辞退者含）、そして 13 社による企業様の協賛をいただきました。

第 38 回年会はテーマを「教育情報学の地平を拓く～教育 DX の推進に向けて～」と掲げ、2 年ぶりに対面での年会開催の準備を進めて参りました。本テーマ設定の背景には、2020 年からの新型コロナウイルス感染症拡大により、教育情報学の使命と重要性が高ま

っていること、そして、2022 年度より本学会会長のバトンが林徳治先生から安達一寿先生へ引き継がれることにあります。

多くの会員の皆様と久々にお会いし研究交流を楽しみにしていましたが、2022 年 7 月中旬以降の新型コロナウイルス感染症急拡大により、対面とオンラインによる「ハイフレックス式」による開催へと急遽変更いたしました。7 月下旬における開催方式の変更のため、対面参加（発表）or オンライン参加（発表）での希望を事前に募ることは致しませんでした。また、事前参加申込者へは年会論文集と領収書・名札、協賛企業様のチラシ等を年会開催前に郵送させていただきました。この間、課題研究・一般研究の進行をご担当いただく座長の皆様には、年会当日の進行方法に関してご確認・ご協力をいただきました。また、学会運営本部・企画委員の皆様より、年会準備に関するご支援をいただきました。

年会当日の基調講演では、前半は「日本教育情報学会の地平」と題して安達一寿先生のご講演、後半は林徳治先生と安達先生との対談が行われました。安達先生からは、日本教育情報学会の歴史を踏まえつつ、学会の課題とこれから進むべき道をお示しいただきました。また林先生からは、「安達新体制に期待するもの」として、過去からの継承と学会のさらなる発展について安達先生と対談いただきました。

シンポジウムでは、コーディネーター・野末俊比古先生（青山学院大学）の進行により、気鋭の 5 名の皆様にご登壇いただきました。5 名のパネリストからは、①教育 DX に関して技術を推進する視点、②新しいスタイルの学びをマネジメントする視点、③教育データ活用を推進する視点、④新しい教授・学習法の実践・研究を推進する視点、⑤特別支援教育を中心とした個別最適な学びを推進する視点からご発言いただきました。参加者からも、対面・オンライン参加の枠を超えて、質問・意見が多数寄せられ、野末先生の進行のもと活発な議論が展開されました。

また、特別セミナーにおいては、藤原みなみ氏（練馬区立美術館、前・角川武蔵野ミュージアム）より、「ミュージアムを活用した新しい教育」と題し、角川武蔵野ミュージアムの教育実践を踏まえ、地域や学校に開かれた博物館になるための課題をお示しいただきました。

年会開催後のアンケートでは、98%以上の皆様より「とても満足できた」「満足できた」と回答いただきました。また、今後の年会開催については、「ハイフレックス型」の開催希望が約 70%、「対面」の開催希望が約 14%という結果になりました。記述内容についても、「今回は久しぶりの対面参加だったので、各先生方の研究発表に実際に触れることができ、今後の研究へのモチベーションがあがりました。」「対面と全く変わりなく満足できた。」「急遽ハイフレックスに変更したにもかかわらず、研究発表も講演も問題なく参加できたことに感謝します。」というコメントをいただきました。

年会開催当日、十文字学園女子大学における対面での参加者は、申込者のうち概ね 3 割前後でした。そして 8 社の協賛企業様の出展をいただきました。「ハイフレックス式」での年会開催は初めての試みでしたが、参加者・発表者の皆様、座長の皆様、学会運営本部の皆様、協賛企業の皆様のご協力によりまして、第 38 回年会を終えることができました。多くの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

次年度の年会開催校・関西国際大学にて、再び多くの皆様と研究交流ができますこと、楽しみにしております。

\*\*\*\*\* お知らせ \*\*\*\*\*

◆年会費納入のお願い

2022年度・過年度年会費について、納入がお済みでない方には、順次メール連絡、自宅・勤務先に電話連絡、登録されています住所へ郵送連絡をしております。至急、ご確認していただき、お手続きをお願いいたします。

お支払いいただいた際の振込金受領書は大切に保管してください。その他、会費お支払い等についてご不明な点のある方は、事務局までお問い合わせください。

◆「教育情報研究」投稿募集

日本教育情報学会では年間3回の機関誌「教育情報研究」を刊行しております。掲載内容は教育情報に関する原著論文をはじめ下記の論文を掲載しています。会員は自由に投稿ができます。投稿方法等詳細については学会HPをご参照ください。

論説・解説     論文     実践論文     研究報告     その他

◆ご登録の住所・勤務先等の変更について

ご自宅や所属先の住所等に変更がある場合は、学会HP内のお問合せ>会員登録情報変更より変更手続きを必ず行ってください。

**日本教育情報学会「第39回年会」開催**

**会 場 : 関西国際大学**

**開催日 : 2023年8月26・27日(予定)**

※詳細は次号掲載予定